

# 11月の果実の見通し

平成30年10月26日現在  
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
りんご類	長野 青森 山形 ほか	8,120	100%	7,972	287	並	289	2,055	25.3%	10月に入ってから一段と気温が下がり、着色良く品質レベルは高い。前年は生育遅れ気味であったが、本年は順調な出荷ペースとなっており、中生種は10月いっぱいではほぼ終了。10月末からは「サンふじ」の入荷が始まってくるが、中生種が早めに切りあがることでスムーズなバトンリレーが出来そうである。台風によるキズ果の発生も見られ下等級品比率が高くなる可能性もあるが、前年並の数量はある見込み。食味の仕上がりは非常に良く、前年並みからやや高めめの価格となろう。
西洋なし類	山形 新潟 ほか	1,196	90%	1,156	335	並	326	1,121	93.7%	西洋なし全体に生育自体は良好だが、台風20号・21号・24号の影響を受けている。山形産「ラ・フランス」はキズ果・スレ果の発生があり、下等級品比率が高まる見込み。新潟産「ルレクチエ」においても台風の被害があつて出荷量は少なく、全体量は決して多くは無い、11月下旬においてりんご作業が終わって一時期「ラ・フランス」の出荷量が増えるだろう。
かき類	福岡 奈良 新潟 ほか	7,432	90%	7,170	243	やや高	243	642	8.6%	開花が早かったので、出荷の流れも前倒し気味に推移。『たねなし柿(「平核無」「刀根早生」)』の販売量は例年より少なくなり月末にはなくなると思われる。「富有柿」中心の販売になり、「次郎柿」においても上旬がピークで中・下旬には減少となる。そのため入荷減・価格高の展開になると思われる。
干し柿	山梨 長野 富山	118	105%	103	1,696	並	1,718	0	0.0%	台風の影響は少なめ。生柿の出荷が早くなっているため柿の剥き作業は例年より早くから始まっている。特に山梨産が早く、出荷も早いが終わりの早くなりそうである。出荷量は各産地とも前年並みから若干多くなる見込み。
みかん類	愛媛 長崎 熊本 ほか	21,480	105%	21,063	269	やや安	249	-	-	10月上旬より各産地の極早生が出揃い、中旬にかけて潤沢な入荷となった。全体的に酸抜けが良く食べやすい仕上がりであったことで店頭での売れ行きも悪くなく、入荷量が多かった割には順調な販売であった。前年はここからの天候不良で数量激減したが、本年は十分な数量がある中で10月末から少しずつ早生種が出始める。各産地が出揃ってくる11月第2週からは、販売苦戦する状況が続くと思われる。数量面での不足感は無く、若干体質の弱さも懸念されることから荷動きを止めない販売体制を整えることが重要となる。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)  
入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があつたもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)